５．大阪商業大学における起業教育　取組紹介

①第16回 全国高等学校ビジネスアイディア甲子園



全国高等学校ビジネスアイディア甲子園は、「世に役立つ人物の養成」を建学の理念とする大阪商業大学が、社会の変化に対応し、自立した人材育成の場として2002年に創設しました。今回は140校から7,522件の応募があり、アイディアの概要や思いついたきっかけ、従来品との違いなどを記した応募書類をもとに１次審査、２次審査を実施し、最終審査では７名のノミネート者が５分間のプレゼンテーションを行い、新規性や着眼点、実現可能性、市場性とともに表現力などを基準に10人の審査員が審査しました。

また、今年度は交流会を表彰式までの審査会議の時間に行い、学校賞受賞校代表者による学校紹介と甲子園の取り組みについて発表してもらいました。１校につき３分間という短い時間でしたが、他の高校生の前でのプレゼンテーションを体験していただきました。

最終審査・表彰式並びに交流会の運営は、在学生を対象に行う「大商大ビジネス・アイディアコンテスト」の応募経験者の学生を中心に９人の学生が担当しました。





受賞作品

■グランプリ

京都府立京都すばる高等学校２年
田中 みあり さん（写真右）

受賞作品タイトル「Rain エコートバッグ」



「母と買い物に出かけた時、急に雨が降り出したのに雨具を持っていなくて困った経験から、常備するにはどうすればいいか考えました」と笑顔で話す田中みありさん。

エコバックと雨具の組み合わせはすぐに思いつき、レインコートより変形しやすそうと、円形に近いポンチョを選択。実際に市販のポンチョを買ってきて、折り目をつけ、ファスナーやボタンで留めるなど工夫を重ねた。さらに最終審査のプレゼンでは、エコバックの利用率や雨具を持ち歩く人の割合などのデータを示したことも評価された。

「グランプリに選ばれるとは思いもしなかったけど、試作品を見せた人たちが『ほしい』と言ってくれ、すごくうれしかった」と田中さん。「学校で商品開発の授業もあるので、この経験を生かして、これからも挑戦していきたい」と話していた。

■準グランプリ

福島県立郡山商業高等学校３年
大竹 優音 さん

受賞作品タイトル「コンパクトブックストッパー」



「授業中、教科書などを開いておくために筆箱などを置いてみても、すぐ閉じてしまったり、大事なところが読みづらくなったり、ストレスだった」と話す大竹優音さん。

「百均ショップ」などで解決策を探り、透明なシリコーンシートの両端に、重し代わりの磁石を組み合わせること

を思いついた。シートを本の上に広げると、そのまま下の文字を読むことができ、すべり止め効果もあるので、閉じにくいという。また磁石も大小を工夫。丸めて筆箱に入れて持ち運べ、「学生に喜ばれること間違いなし！」とアピールした。

卒業後はホテルに就職予定で「これからも世の中の役に立つことを意識していきたい」と抱負を述べた。

■準グランプリ

京都府立京都すばる高等学校２年
川口 あすな さん

受賞作品タイトル「window seat」



昨年６月、沖縄へ研修旅行に行った川口あすなさん。初めて飛行機に乗るのを楽しみにしていたのに、窓際の席でなく残念だったという。「どの席からでも外の景色が楽しめたら」と思いが広がった。

飛行機に360度カメラを設置し、その映像がスマートフォンのアプリで楽しめるサービスを提案した。昨年の流行語にもなった「インスタ映え」を意識し、そのアプリを使って撮影された風景写真がシェアされれば、航空会社にもメリットになると強調した。

川口さんは「具体的な商品があるわけではないので、どうすれば良さをアピールできるか、プレゼン資料作りが大変だった。賞がもらえてうれしい」と話していた。

■審査員特別賞

明桜高等学校（秋田県） ２年
横山 夏希 さん（写真右）

受賞作品タイトル
「クルクルハンガー」



岐阜県立岐阜商業高等学校２年
市川 竣也 さん

受賞作品タイトル
「水害時に役立つヘッドレスト」



愛知県立愛知商業高等学校１年
小松 舞香 さん

受賞作品タイトル
「ペルカサ」



大阪市立扇町総合高等学校３年
和田 里穂 さん（写真右）

受賞作品タイトル
「タイムスリッププロジェクト
親子で参加」



■学校賞　15校



北海道札幌啓北商業高等学校
明桜高等学校（秋田県）
福島県立郡山商業高等学校
岐阜県立岐阜商業高等学校
静岡県立伊東商業高等学校
愛知県立一宮商業高等学校
三重県立四日市農芸高等学校
京都府立京都すばる高等学校
大阪府立登美丘高等学校
大阪市立大阪ビジネスフロンティア高等学校
大阪商業大学堺高等学校（大阪府）
兵庫県立伊丹高等学校
岡山県立岡山東商業高等学校
岡山県立岡山南高等学校
岡山県立倉敷商業高等学校

■交流会

表彰式前に、本学学生の司会進行・運営による交流会を開催しました。今年度は、学校賞受賞校の代表生徒のみなさんに学校紹介をお願いし、学校の自慢やビジネスアイディア甲子園の取り組みについて発表してもらいました。









■審査委員長講評

大阪商業大学　起業教育委員会委員長
柴田孝准教授



部活動や両親との会話をきっかけに、身近なニーズから課題を発見するなど、どの作品もすばらしく、頼もしく感じました。あえて差をいえば、今年は商品化できそう、売れそうというのが一つの切り口になったように思います。また近年は商品の応募が多かったのですが、今年はサービスを通じた生活スタイルの提案もあり、夢を感じました。

アイデアを考える際、まず自分がほしいと思うことが一番だと思います。さらに市場データを取り入れるなど、プレゼンテーションに説得力があると評価のポイントになるでしょう。

一歩踏み込んで自分とは違うものの見方を獲得することはとても重要です。社会について広く関心を持ってもらうと同時に、いろんな本にも親しんでほしい。次の時代を作っていく力を蓄えながら、チャレンジし続けてくれることを期待しています。

■学生スタッフのみなさん

「大商大ビジネス・アイディアコンテスト」の入賞者等で構成する学生運営委員会メンバー。学内コンテストへの応募や授業での自分自身の経験を活かして、高校生の最終審査のサポートを務めました。

最終審査で司会やステージマネジメント等の運営に携わることで、新たな発見や自分自身の成長につながる貴重な機会となりました。



（前列左から）
経営学科２年　窪田 遊来 さん
経営学科３年　帖佐 晴菜 さん
経営学科３年　藤川 功基 さん
経済学科３年　教村 望実 さん
商 学 科２年　古川 晴加 さん
（後列左から）
経営学科１年　阪口 輝虎 さん
経営学科３年　山下 卓朗 さん
経営学科３年　廣瀬 由幸 さん
商 学 科２年　杉浦 正弥 さん

今年度の取組と評価について

大阪商業大学　総合経営学部　准教授
起業教育委員会　甲子園ワーキング長　法雲　俊栄

今年度のビジネスアイディア甲子園の取組では、前年にご参加いただいた高校の先生方からのアンケート結果、運営委員のコメントに基づき、運営面での細かな調整、書類審査時の既存商品や類似品の精査、スケジュールの一部変更に加え、交流会イベントの内容を変更して実施した。

最終審査の交流会イベントは、ノミネートされた生徒や学校賞受賞校の生徒と引率の先生方、本学の学生スタッフに参加していただき、ものづくり体験やビジネスアイディア甲子園の取組を通じた、情報交換と交流を目的として、長く続けているイベントである。遠方から来ていただいている参加校は、帰宅が遅くなってしまうため、参加が難しい学校もあり、引率の先生方からは、交流会の時間がもう少し早ければ参加したいとのご意見がここ数年寄せられていた。このような理由から、今年は記念講演を行っていた時間帯に交流会の開催時間を繰り上げて実施した。

今年度は、新校舎である re-Act の１階プレゼンテーションエリアを使用し、各校に①「生徒目線からの学校紹介」、②「ビジネスアイディア甲子園の取り組みについて」をテーマに発表してもらった。最終審査の協議中の時間帯であったため、11校で50分間、１校あたり３～４分と持ち時間がとても短かったが、個性あふれる学校紹介が繰り広げられ、関係者のみならず、参加した生徒同士も、他の高校生のプレゼンを聞いて、「凄いと思った。」「やっている事のレベルが高い！」など、刺激を受け合ったり、生徒ならではの苦労に共感したり、それぞれが思い感じているようであった。



図１　生徒による学校紹介がおこなわれた交流会の様子

今回は交流会の時間が短かったため、生徒同士による一対一の交流の場は、

提供できなかったが、ビジネスアイディア甲子園のイベントをきっかけとして参加者の思いが近づいた場であったと思う。今後も生徒間で刺激になるような交流の場を提供できるよう、さらに運営の工夫を図っていきたい。

今年度の傾向

今年度の個人賞グランプリは、「Rain エコートバッグ」、準グランプリは、「コンパクトブックストッパー」、「window seat」であった。審査員特別賞は、「クルクルハンガー」、「水害時に役立つヘッドレスト」、「ペルカサ」、「タイムスリッププロジェクト　親子で参加」であった。

「Rain エコートバッグ」は、私たちにとって非常に身近なエコバッグを改良したもので、あったら便利という日常生活に溶け込んだアイディアであった。また最終審査のプレゼンテーションの際には、試作品を用意し、使用の方法や着用のイメージを実演して紹介するといった、とてもアイディアを理解しやすい発表であった。「コンパクトブックストッパー」も、高校生ならではの目線から日頃不便に感じていることを改善するために考案された商品で、試作品もスライドの中で紹介されておりイメージし易かった。近年、ほとんどのノミネート者が試作品を作るなど、プレゼンテーションも気合が入っているため、会場にも臨場感が伝わり、見ている観客も発表とアイディアの内容に対して目が釘付けになった。「window seat」は、飛行機を利用したことがある人は、同じように思ったことがあるのでは？と、誰もが共感出来るような内容で、さらに、近年ソーシャルネットワークでの写真投稿が流行している社会現象を捉えてアイディアと組み合わせている点は、まさに現代のニーズに合ったサービスの提案であるといえる。

今回のコンテスト入賞作品においては、５年ぶりにサービスに関するアイディアが（７件中２件「window seat」、「タイムスリッププロジェクト　親子で参加」）ノミネートされ、運営側としても大変喜ばしい結果であった。近年は、サービスに関するアイディアが最終審査にノミネートされず、過去の応募作品も圧倒的に商品に関するアイディアが多かったため、今回を機に、サービス関連の応募と上位へのノミネート数が増えることを期待したい。

今後の教育と合わせて

現行の新学習指導要領には、ゆとりでも詰め込みでもなく、子どもたちの「生きる力」を育むという方針が示されている。この生きる力は、元々、1996年の文部科学省の中央教育審議会「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」に記されたものである。具体的には、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、より良く問題を解決する資質や能力であり、また自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心など、豊かな人間性を育てることであると示されている。

今日の教育現場では、様々な学習手法が注目を集めており、発見学習、問題・課題解決学習、体験学習、グループディスカッション、ディベート、グループワーク等を積極的に取り入れるための授業が模索されている。

最近の文部科学省と経済産業省が進めている「初等中等教育段階における起業家教育の普及に関する検討会」では、「学習指導要領の理念と起業家教育が涵養するもの」と題し、起業家教育は、「課題発見・解決能力」「創造性」「感性、思いやり、意欲、多様性を受容する力」といった、これからの時代

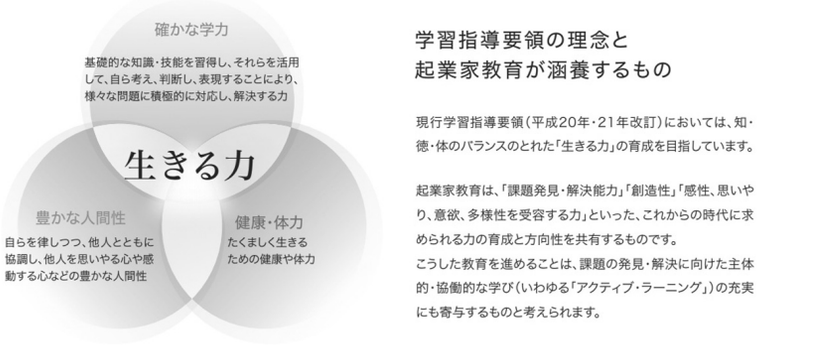


図２　新学習指導要領　「生きる力」を育む起業家教育のススメ
経済産業省文部科学省の資料より

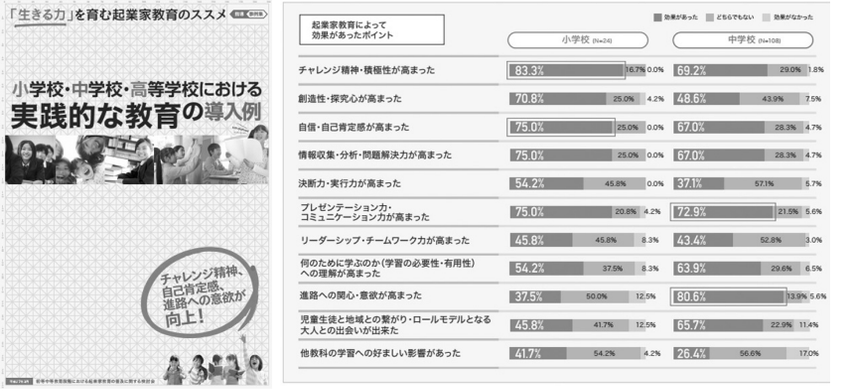


図３　起業家教育の効果　「実践的な教育における 小学校・中学校・高等学校の導入例」
経済産業省・文部科学省の資料より

に求められる力の育成と方向性を共有するもので、こうした教育を進めることは、課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び（いわゆる「アクティブラーニング」）の充実にも寄与するものと考えられると、今後の初等中等教育において起業教育を積極的に推進する考え方が示されている。

この検討会が発行する、「生きる力」を育む起業家教育のススメ「実践的な教育における小学校・中学校・高等学校の導入例」では、全国の小中学校にアンケート調査を実施し、起業家教育の取組の状況とその効果について調査報告がおこなわれている。教育の効果があったポイントとして、小学校では、「チャレンジ精神・積極性が高まった」が８割以上、「自信・自己肯定感が高まった」が７割以上。中学校では、「進路への関心・意欲が高まった」が８割以上、「プレゼンテーション力・コミュニケーション力が高まった」が７割以上と、より実践的な教育としての有用性が結果として示されている。

今後、日本の将来を背負う若者たちは、今、以上に様々な社会問題に直面することが予測される。高校生をはじめとする若者たちに、出来るだけ早い段階で、社会との関わり、社会への貢献について考え、次世代を生き抜く逞しい精神を養ってもらう必要がある。本学が取組でいるこのビジネスアイディア甲子園もそのような起業家精神を育成するツールの一つとして多くの方々にご活用いただければと願っている。

参考文献：

１．文部科学省，中央教育審議会　第一次答申，「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」，1996年７月。
２．経済産業省　経済産業政策局，文部科学省，「生きる力」を育む起業家教育のススメ〈指導 事例集〉「実践的な教育における 小学校・中学校・高等学校の導入例」，2017年３月。